

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
 -妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

| 団体名        | 課題に対する団体としての15年度の取り組み | 15年度の取り組み実績  | 16年度の取り組み行動計画   |
|------------|-----------------------|--|---|
| 36. 日本助産学会 | 15.20.22.             | <p>15 満足できる妊娠・出産への支援<br/>                     &lt;&lt;次世代育成支援「いいお産」2003へブース参加&gt;&gt;<br/>                     ・平成15年11月3日、日本教育会館で開催された、厚生省・（財）こども未来財団主催、健やか親子21推進協議会後援の次世代育成支援「いいお産の日」2003に参加、8Fネットワークの部屋にブースを出展し、妊娠・出産に関連した研究の紹介等を行った。</p> <p>また、「健やか親子21」の課題3「小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備」の「26：乳児のSIDS死亡の防止」に関連し、SIDS防止対策リーフレットを配布した。</p> <p>&lt;&lt;委員会活動&gt;&gt;<br/>                     ・業務・教育検討委員会において、助産所における妊産婦と助産師の記録の共有化を図ることを目的に「助産師業務における情報開示」を検討した。本年度はコンピュータの母子管理記録を参考に妊産婦管理記録を作成し、助産所の管理者と妊産婦の両方にプリントとして使用してもらい、各種修正を行った。</p> <p>&lt;&lt;研究助成&gt;&gt;<br/>                     ・平成15年度の委託研究は、「健やか親子21」の課題2に関連した研究課題について公募をした。ちなみに、学術奨励課題は、助産学の発展、助産実践の改善と開発、その他母子保健領域の学際的調査、研究等である。</p> <p>委託研究に4件、奨励研究に6件応募があり、検討の結果、委託研究助成（1件50万円）として、「妊産婦支援における産科医師と助産師のコラボレーション-妊娠・出産の安全性と快適さを追求した病院の取り組み-」と「不妊治療を受けている女性の悩みと対処パターンのモデル構築」の2件が採択された。</p> <p>学術奨励研究助成（1件30万円）として、「多胎児を持つ母親と家族への看護師縁-妊娠期からのピアサポートの試み-」と「足浴による分娩促進作用-自律神経系に対する足浴の作用機序に関する基礎的研究」の2件が採択された。</p> | <p>15 満足できる妊娠・出産への援助<br/>                     &lt;&lt;研究助成&gt;&gt;<br/>                     本学会はわが国の助産学と母子保健の発展を図ることを目的に、毎年、学術奨励研究ならびに委託研究助成を行い、その成果を研究終了後広く公表している。平成15年度の委託研究は、「健やか親子21」の課題2に関連した研究課題について公募をした。ちなみに、学術奨励課題は、助産学の発展、助産実践の改善と開発、その他母子保健領域の学際的調査、研究等である。</p> <p>平成16年3月20日に応募を締め切り、委託研究助成1件、奨励研究15件の応募があった。本年度の採用予定は各2件合計4件で、現在審査中である。</p> <p>※ 助成規模 学術奨励研究助成：30万円／1件<br/>                     委託研究助成：50万円／1件</p> <p>&lt;&lt;委員会活動&gt;&gt;<br/>                     業務・教育検討委員会の課検討課題は一昨年度から継続して、妊産婦と助産師の情報や記録の共有化を図ることをねらいとした「助産師業務における情報開示」とする。本年度は修正した妊産婦管理記録を再度使用してもらい、妊産婦管理記録を完成させる予定である。</p> |

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
 -妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

| 団体名        | 課題に対する団体としての15年度の取り組み | 15年度の取り組み実績   | 16年度の取り組み行動計画  |
|------------|-----------------------|---|--|
| 36. 日本助産学会 |                       | <p>20 産婦人科医・助産師の確保と養成の推進・資質の向上<br/>                 &lt;&lt;第6回世界周産期学会後援ならびに助産プログラム企画・運営協力&gt;&gt;<br/>                 平成15年9月13～15日に大阪で開催される第6回世界周産期学会を後援し、<br/>                 国際委員会メンバーがプログラム委員として協力・運営した。9月14・15日には助産分科会が開催され、国際学会において助産学の発展ならびに助産師の質の向上、より良い助産ケアをめざした活発な国際交流がおこなわれた。</p> <p>&lt;&lt;ワークショップ開催&gt;&gt;<br/>                 平成15年11月15日(土)9:30～16:00 参加者:のべ67名<br/>                 会場:京都府立医科大学医学部看護学科第1講義室<br/>                 基調講演:「ケアの質的向上のための助産学研究の進め方」<br/>                 グループワーク:助産ケア実践の検証に関する研究(妊婦、産婦を対象とした)<br/>                 助産ケア実践の検証に関する研究(褥婦/新生児・ハイリスク新生児を対象とした)<br/>                 助産学教育に関する研究<br/>                 育児における人間環境に関する研究</p> | <p>20 産婦人科医・助産師の確保と養成の推進・資質の向上<br/>                 &lt;&lt;学術集会開催&gt;&gt;<br/>                 第19回日本助産学会学術集会<br/>                 会 期:平成17年3月19日(土)～20日(日)<br/>                 テーマ:出産・子育てを支える助産ケア:人と環境の視点から<br/>                 学会長:宮中 文子(京都府立医科大学)<br/>                 会 場:国立京都国際会館</p> <p>会長講演、特別講演、教育講演2題、シンポジウム1題、ワークショップ5題を企画中であり、また一般演題も広く募集する。詳細は本学会ホームページでも情報提供、随時更新していく予定である。<br/>                 日本助産学会ホームページ ⇒<br/> <a href="http://www.square.umin.ac.jp/jam/">http://www.square.umin.ac.jp/jam/</a></p> |

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
 -妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

| 団体名        | 課題に対する団体としての15年度の取り組み | 15年度の取り組み実績   | 16年度の取り組み行動計画   |
|------------|-----------------------|---|---|
| 36. 日本助産学会 |                       | ≪学術集会開催≫<br>平成16年3月5日・6日 参加者：約600名<br>会場：東京大学安田講堂・学術総合センター<br>メインテーマ：「喜びとともに生まれる、その先の助産ケア。Joyful Midwifery with Women」<br>1) 会長講演：<br>「喜びとともに生まれる、その先の助産ケア。-女性と助産師の新しい関係-」<br>学会長 松岡 恵（東京医科歯科大学）<br>2) 招聘講演：「Joyful Midwifery」 Sandy Grey（ニュージーランド助産師協会会長）<br>3) シンポジウム：「喜びにあふれた出産・育児のために」<br>4) ワークショップ<br>① その先の助産ケアー連帯から生まれる母子の安全保証<br>② その先の助産ケアー国際協力に通じる助産師の能力とは<br>③ その先の助産ケアー母子相互作用の視点を毎日のケアに取り入れる<br>④ その先の助産ケアー自己理解を相手の理解と相互のエンパワメントにつなげる<br>⑤ その先の助産ケアー改めてエビデンスに基づいたアロマセラピーを学ぶ<br>5) 一般演題：口演51題・示説16題 | ≪ワークショップ開催≫<br>次期学術集会会長が学術集会を関連付けて、前年にワークショップを企画することになっている。本年度は、「健やか親子21」の目標達成に向けた企画を計画する予定である。詳細は本学会ホームページ、学会誌、ニュースレター等で広報する。<br><br>≪学会誌発行≫ 「日本助産学会誌」(ISSN0917-6357) 発行部数：各1,300部<br>第18巻第1号(平成16年6月)、第18巻第2号(平成16年12月)、第18巻第3号(平成17年3月)に発行予定である。<br><br>≪ニュースレター発行≫ 「日本助産学会ニュースレター」 発行部数：各1,300部<br>年3回、第44号、第45号、第44号を発行予定である。<br><br>≪国際協力事業≫<br>本年度も国際助産師連盟(ICM)のセマザーフット募金、ポスター・アミッドワイ基金に協力し、募金活動を展開する。 |
| 36. 日本助産学会 |                       | ≪学会誌発行≫ 「日本助産学会誌」(ISSN0917-6357)<br>発行部数：各1,300部<br>第17巻第1号(平成15年6月)<br>第17巻第2号(平成15年12月)<br>第17巻第3号(平成16年3月)<br>≪ニュースレター発行≫ 「日本助産学会ニュースレター」<br>発行部数：各1,300部<br>第41号(平成15年6月)<br>第42号(平成15年10月)<br>第43号(平成16年2月)<br>≪国際協力事業≫<br>1) セマザーフット基金への協力<br>国際助産師連盟(ICM)の趣旨に賛同し、随時、基金への協力を募っている。<br>2) ポスター・アミッドワイ基金への協力<br>ICM大会開催時のポスターとして50万円を目標に募金活動を展開している。  |   |

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

| 団体名            | 課題に対する団体としての15年度の取り組み | 15年度の取り組み実績   | 16年度の取り組み行動計画  |     |           |     |               |     |              |     |           |     |         |     |   |                |    |           |    |               |    |              |    |           |    |         |    |
|----------------|-----------------------|---|----------------|-----|-----------|-----|---------------|-----|--------------|-----|-----------|-----|---------|-----|---|----------------|----|-----------|----|---------------|----|--------------|----|-----------|----|---------|----|
| 36. 日本助産学会     | 14.15.16.17.18.19.20. | <p>14) 妊産婦死亡の防止, 19) 周産期医療ネットワークの整備と機能の向上に対して</p> <p>(1) 「助産所における取扱い基準および急変時の対応のためのガイドライン」の普及(平成14年度厚生労働省科学研究「助産所における安全で快適な妊娠・出産環境の確保に関する研究」:青野班作成分)</p> <p>①分娩を取り扱う全助産所へのガイドラインを機関誌(「助産師」Vol.58, No.1, 2004)を通じて全会員(7200名)に周知した。</p> <p>②関連専門団体との検討会の開催<br/>産婦人科医・小児科医を含む17名の検討回を5回開催した。</p> <p>このガイドラインを基本に、本会・支部および助産所部会、役員会、本部役員会で検討したものを平成16年度総会で検討予定である。</p> <p>(2) 助産所における安全性推進対策</p> <p>①安全対策室の設置<br/>毎週金曜日に無料相談室(来所・電話による)を開催し、平成15年9月～平成16年3月までに、電話37件、来所4件、計41件の相談があった。</p> <p>②安全対策委員会活動<br/>9回の委員会を開催し、助産所評価基準の検討等を行った。</p> <p>③助産所機能評価基準の作成<br/>安全対策委員会で作成し、平成16年度に有床助産所で自己評価表として活用予定である。</p> <p>(3) 出産の安全性と快適性に関する研修会の開催</p> <table border="0"> <tr><td>①救急対応強化のための研修会</td><td>60名</td></tr> <tr><td>②自然分娩セミナー</td><td>89名</td></tr> <tr><td>③産科リスクマネージメント</td><td>22名</td></tr> <tr><td>④アクティブバース研修会</td><td>44名</td></tr> <tr><td>⑤産科ME診断技法</td><td>15名</td></tr> <tr><td>⑥開業セミナー</td><td>35名</td></tr> </table> | ①救急対応強化のための研修会 | 60名 | ②自然分娩セミナー | 89名 | ③産科リスクマネージメント | 22名 | ④アクティブバース研修会 | 44名 | ⑤産科ME診断技法 | 15名 | ⑥開業セミナー | 35名 | <p>14) 妊産婦死亡の防止, 19) 周産期医療ネットワークの整備と機能の向上に対して</p> <p>(1) 平成16年度通常総会において決議した「助産所における取扱い基準および急変時の対応のためのガイドライン」の普及を図る。<br/>(平成14年度厚生労働省科学研究「助産所における安全で快適な妊娠・出産環境の確保に関する研究」:青野班作成分を基に本会で修正したもの)</p> <p>①分娩を取り扱う全助産所への修正したガイドラインを助産所部会員に配布する。</p> <p>②関連専門団体との連携を図る。</p> <p>(2) 助産所における安全性推進対策</p> <p>①安全対策室の充実<br/>毎週金曜日に無料相談室(来所・電話による)事業を行う。</p> <p>②支部安全対策委員会の設置推進および委員への研修を行う。</p> <p>③助産所機能評価表の自己評価の推進を図る。</p> <p>④会員の事故報告の義務化と事故者への教育研修を行う。</p> <p>⑤助産所分娩の評価に関する調査の実施</p> <p>(3) 出産の安全性と快適性に関する研修会の開催</p> <table border="0"> <tr><td>①救急対応強化のための研修会</td><td>1回</td></tr> <tr><td>②自然分娩セミナー</td><td>3回</td></tr> <tr><td>③産科リスクマネージメント</td><td>1回</td></tr> <tr><td>④アクティブバース研修会</td><td>1回</td></tr> <tr><td>⑤産科ME診断技法</td><td>1回</td></tr> <tr><td>⑥開業セミナー</td><td>1回</td></tr> </table> | ①救急対応強化のための研修会 | 1回 | ②自然分娩セミナー | 3回 | ③産科リスクマネージメント | 1回 | ④アクティブバース研修会 | 1回 | ⑤産科ME診断技法 | 1回 | ⑥開業セミナー | 1回 |
| ①救急対応強化のための研修会 | 60名                   |   |                |     |           |     |               |     |              |     |           |     |         |     |   |                |    |           |    |               |    |              |    |           |    |         |    |
| ②自然分娩セミナー      | 89名                   |   |                |     |           |     |               |     |              |     |           |     |         |     |   |                |    |           |    |               |    |              |    |           |    |         |    |
| ③産科リスクマネージメント  | 22名                   |   |                |     |           |     |               |     |              |     |           |     |         |     |   |                |    |           |    |               |    |              |    |           |    |         |    |
| ④アクティブバース研修会   | 44名                   |   |                |     |           |     |               |     |              |     |           |     |         |     |   |                |    |           |    |               |    |              |    |           |    |         |    |
| ⑤産科ME診断技法      | 15名                   |   |                |     |           |     |               |     |              |     |           |     |         |     |   |                |    |           |    |               |    |              |    |           |    |         |    |
| ⑥開業セミナー        | 35名                   |   |                |     |           |     |               |     |              |     |           |     |         |     |   |                |    |           |    |               |    |              |    |           |    |         |    |
| ①救急対応強化のための研修会 | 1回                    |   |                |     |           |     |               |     |              |     |           |     |         |     |   |                |    |           |    |               |    |              |    |           |    |         |    |
| ②自然分娩セミナー      | 3回                    |   |                |     |           |     |               |     |              |     |           |     |         |     |   |                |    |           |    |               |    |              |    |           |    |         |    |
| ③産科リスクマネージメント  | 1回                    |   |                |     |           |     |               |     |              |     |           |     |         |     |   |                |    |           |    |               |    |              |    |           |    |         |    |
| ④アクティブバース研修会   | 1回                    |   |                |     |           |     |               |     |              |     |           |     |         |     |   |                |    |           |    |               |    |              |    |           |    |         |    |
| ⑤産科ME診断技法      | 1回                    |   |                |     |           |     |               |     |              |     |           |     |         |     |   |                |    |           |    |               |    |              |    |           |    |         |    |
| ⑥開業セミナー        | 1回                    |   |                |     |           |     |               |     |              |     |           |     |         |     |   |                |    |           |    |               |    |              |    |           |    |         |    |

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
 -妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

| 団体名           | 課題に対する団体としての15年度の取り組み | 15年度の取り組み実績  | 16年度の取り組み行動計画   |
|---------------|-----------------------|--|---|
| 37. (社)日本助産師会 |                       | 15) 満足できる妊娠・出産への支援に対して<br>(1) 全国6地区でブロック研修会を開催し、合計920名の参加があった。<br><br>16) 産後うつ病を含む心のケア促進に対して<br>(1) 支部を通して市町村に産後ケア事業の推進に関する要望書を出す等、産後ケア事業を推進した。<br>18) 母性健康管理指導事項連絡カードの普及・啓発に対して<br>(1) 研修会等での啓蒙に努めた。<br><br>20) 産婦人科医・助産師の確保と養成の推進・資質の向上に対して<br>(1) 厚生労働省・文部科学省等関係機関への要望を行った。 | 15) 満足できる妊娠・出産への支援に対して<br>(1) 全国6地区でブロック研修会を開催する。<br>(2) パースプラン普及等、出産環境の整備を図る。<br><br>16) 産後うつ病を含む心のケア促進に対して<br>(1) 支部を通して市町村に産後ケア事業の推進に関する要望書を出す等、産後ケア事業を推進する。<br>18) 母性健康管理指導事項連絡カードの普及・啓発に対して<br>(1) 研修会等での啓蒙に努める。<br><br>20) 産婦人科医・助産師の確保と養成の推進・資質の向上に対して<br>(1) 厚生労働省・文部科学省等関係機関への要望を行う。 |
| 38. 日本性感染症学会  | 20                    | 20. 産婦人科医・助産師の確保と養成の推進・資質の向上<br>※性感染症 診断・治療ガイドライン2004年版を作成するため、準備作業を行っている。   | 20. 産婦人科医・助産師の確保と養成の推進・資質の向上<br>性感染症 診断・治療ガイドライン2004年版を作成し、当学会の会員に送付し、また、一般にも頒布して、性感染症の診断・治療のレベルの向上に努める。  |

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
 -妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

| 団体名        | 課題に対する団体としての15年度の取り組み   | 15年度の取り組み実績  | 16年度の取り組み行動計画   |
|------------|---|--|---|
| 39. 日本赤十字社 | 14.15.16.17.18.19.<br>20.23.24.25.29.30.<br>36.50.52.53.60.61.<br>62. | ①テーマ14,15,16,17,18,23,24,25,29,30,50,52,60,<br>61,62<br>*母親学級：全国で73の赤十字病(産)院にて実施<br>②テーマ14,15,16,17,18,23,24,25,29,30,50,52,60,<br>61,62<br>*妊産婦健康相談：全国で58の赤十字病(産)院にて実施<br>③テーマ14,15,18,23,61<br>*無痛分娩講習会：全国で16の赤十字に病院にて実施<br>①～③について、「母子保健医療推進の認識の醸成に努めるとともに自治体等との連携を図りながら、赤十字病院として実施可能な事項についてさらなる推進について取り組むこと。」を念頭に「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」の課題について、上記の多数のテーマを総合的に、妊娠から出産・産後における身体・心のケアを助産師・看護師・医師を中心に多くの赤十字病院にて実施した。<br>④テーマ14,15,19,23,24,25,26,36,53,60<br>*総合周産期母子医療センター：全国で7の赤十字病院に設置<br>*地域周産期母子医療センター：全国で10の赤十字病(産)院に設置<br>*新生児特定集中治療管理室：全国で32(396床)の赤十字病(産)院に設置<br>④について、出産前後の母体及び胎児並びに新生児の一貫した診療・管理等を行った。<br>⑤テーマ20<br>*日本赤十字社助産師学校(広尾・大阪)：平成15年度免許取得者35名<br>⑤について、助産師の確保と養成・資質の向上等を図った。 | ①テーマ14,15,16,17,18,23,24,25,29,30,50,<br>52,60,61,62<br>*母親学級<br>②テーマ14,15,16,17,18,23,24,25,29,30,50,<br>52,60,61,62<br>*妊産婦健康相談<br>③テーマ14,15,18,23,61<br>*無痛分娩講習会<br>①～③について、「母子保健医療推進の認識の醸成に努めるとともに自治体等との連携を図りながら、赤十字病院として実施可能な事項についてさらなる推進について取り組むこと。」を念頭に、15年度に引き続き「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」の課題について、上記の多数のテーマを総合的に、妊娠から出産・産後における身体・心のケアを助産師・看護師・医師を中心に実施すること。<br>④テーマ14,15,19,23,24,25,26,36,53,60<br>*総合周産期母子医療センター：全国で7の赤十字病院に設置<br>*地域周産期母子医療センター：全国で10の赤十字病(産)院に設置<br>*新生児特定集中治療管理室：全国で32(396床)の赤十字病(産)院に設置<br>④について、出産前後の母体及び胎児並びに新生児の一貫した診療・管理等を行うこと。<br>⑤テーマ20<br>*日本赤十字社助産師学校(広尾)<br>⑤について助産師の確保と養成の推進・資質の向上等を引き続き行うこと。 |

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
 -妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

| 団体名          | 課題に対する団体としての15年度の取り組み    | 15年度の取り組み実績   | 16年度の取り組み行動計画   |
|--------------|--------------------------|---|---|
| 44. 日本母性衛生学会 | 14.15.16.19.20.21.22.60. | 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援<br>学会誌での取組<br>15 満足できる妊娠・出産への支援<br>* 「母性衛生」44巻1号<br>妊娠期の夫の身体的・心理的変化（田中恵子）<br>つわり症状に対する心理的および生理学的アプローチ（加古亜沙子他）<br>女性が出産に望むこと－助産院での調査より－（鈴木敬子他）<br>「母性衛生」44巻2号<br>妊娠・出産が母親の心理に及ぼす影響－夫からのサポートに着目して－（脇田満里子他）<br>出産体験の満足に関連する要因について（中野美佳他）<br>分娩第1期消化器症状と分娩経過の関連ならびにその発現に及ぼす心理的因子の影響（北本佳文他）<br>「母性衛生」44巻4号<br>日本の麻酔分娩の実態とその問題点（大石時子他）<br>分娩直後のカンガルーケアに関する研究（嶋良子他）<br>16 産後うつ病を含む心のケアの促進<br>「母性衛生」44巻1号<br>産後のうつ状態と母子相互作用についての縦断的研究（その1）－マタニティ<br>ブルーズと産後のうつ状態の頻度と背景要因の検討－（佐藤文他）<br>* 「母性衛生」44巻2号<br>産後のうつ状態と母子相互作用についての縦断的研究（その2）－産後のうつ状態が母子相互作用に及ぼす影響について－（佐藤文他）<br>「母性衛生」44巻4号<br>・胎児異常を告知された女性の妊娠期の体験に関する研究（安部いずみ） | 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22<br>妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援<br>学会誌での取組<br>年4回発行予定の学会誌「母性衛生」での取組を推進する。<br>総会・学術集会での取組<br>本年度第45回日本母性衛生学会学術集会において下記の講演を実施し、これらのテーマについて会員の理解と対策を深めるとともに、総合討論を行い検討考察する。<br>予定参加人数 約2000名（医師・助産師・看護師・保健師など）<br>開催 第45回日本母性衛生学会学術集会<br>期日 平成16年9月16・17日<br>場所 東京都 京王プラザホテル<br><br>会長講演<br>テーマ： 医療訴訟事案から見た安全かつ快適な分娩への対応<br>講師： 木下勝之学会長（順天堂大学医学部産科婦人科学教授）<br><br>16 産後うつ病を含む心のケアの促進<br>教育講演<br>①テーマ： 産褥うつ病：看護スタッフによる診断と治療<br>講師： 北村俊則先生（熊本大学医学部精神医学教授） |

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
 -妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

| 団体名          | 課題に対する団体としての15年度の取り組み | 15年度の取り組み実績   | 16年度の取り組み行動計画   |
|--------------|-----------------------|---|---|
| 44. 日本母性衛生学会 |                       | <p>19 周産期医療ネットワークの整備と機能の向上<br/>                     「母性衛生」44巻1号<br/>                     NICU入院を経験した患児をもつ両親への意識調査（第1報）-医療に対する<br/>                     父母の満足-（宮崎つた子他）<br/>                     NICU入院を経験した患児をもつ両親への意識調査（第2報）-親の心理的特性-（宮崎つた子他）<br/>                     20 産婦人科医・助産師の確保と養成の推進・資質の向上<br/>                     「母性衛生」44巻1号<br/>                     助産師の実践能力に関する自己評価（井上松代他）<br/>                     助産師の自己効力感（Self-Efficacy）および仕事の満足感に関する研究（加藤尚美）<br/>                     21 不妊専門相談センターの整備と機能の向上<br/>                     「母性衛生」44巻1号<br/>                     ・当院産婦人科外来における「女性のなやみ相談室」9年間の検討（小笠麻紀他）<br/>                     22 不妊治療を受ける際の環境の整備と関係者の資質の向上<br/>                     「母性衛生」44巻1号<br/>                     不妊治療後に妊娠・出産した女性の心理-8事例の面接調査の分析結果から-<br/>                     （大槻優子）<br/>                     「母性衛生」44巻4号<br/>                     ・生殖医療に関する慢性疾患患者・医師・看護師の意識差（平岡敬子他）<br/>                     60 栄養・食生活の改善<br/>                     「母性衛生」44巻4号<br/>                     ・妊娠から産後を通じた体重の変化と食事内容の追跡調査（中川光子他）</p> | <p>②テーマ：妊婦の心のケアのために必要な精神的技術の習得と成果<br/>                     講師：吉田敬子先生（九州大学医学部小児科講師）</p> <p>19 周産期ネットワークの整備と機能の向上<br/>                     教育講演<br/>                     テーマ：産科救急と地域周産期ネットワークの実際とこれから<br/>                     講師：竹田省（埼玉医大総合医療センター産婦人科教授）</p> <p>シンポジウム<br/>                     テーマ 安心して出産できる医療と社会環境の整備をいかにすすめるか<br/>                     （少子化に対する取り組み）<br/>                     不妊症カップルへの対応<br/>                     不育症カップルへの対応<br/>                     働く女性の妊娠出産育児の支援<br/>                     保育所の問題点と対策<br/>                     上記4つの課題をシンポジウムで取り上げ総合討論する。</p> <p>シンポジウム<br/>                     テーマ 助産所の安全と快適性いかに確保するか<br/>                     シンポジウム<br/>                     テーマ 地域と施設の違いによる助産師の役割と今後の課題</p> |



健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
 -妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

| 団体名          | 課題に対する団体としての15年度の取り組み | 15年度の取り組み実績   | 16年度の取り組み行動計画 |
|--------------|-----------------------|---|---------------|
| 44. 日本母性衛生学会 |                       | <p>2. 総会・学術集会での取組<br/>                     参加人数 約2000名(医師・助産師・看護師・保健師など)<br/>                     開催 第44回日本母性衛生学会学術集会<br/>                     期日 平成15年10月9・10日<br/>                     場所 栃木県宇都宮市栃木県総合文化センター</p> <p>14. 妊産婦死亡の防止<br/>                     19. 周産期医療ネットワークの整備と機能の向上<br/>                     「目的」<br/>                     上記のテーマについて栃木県の周産期医療を中心に講演された。<br/>                     「効果」<br/>                     会長講演（会長佐藤郁夫）において周産期医療の現況と課題が示された。</p> <p>14. 妊産婦死亡の防止<br/>                     「目的」<br/>                     上記のテーマについて何をすべきか考察する。<br/>                     「効果」<br/>                     講演（ケニア保健省地域保健専門家荒堀憲二）においてケニアの妊産婦死亡率を巡る国際支援の輪と日本的助産への期待について提言された。</p> |               |

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
 -妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

| 団体名          | 課題に対する団体としての15年度の取り組み | 15年度の取り組み実績   | 16年度の取り組み行動計画 |
|--------------|-----------------------|---|---------------|
| 44. 日本母性衛生学会 |                       | <p>15. 満足できる妊娠・出産への支援<br/>                     上記のテーマについて堀内勤先生（聖マリアンナ医科大学小児科学教授）より教育講演においてカンガルーケアが紹介された。また、NPO法人お産サポートJAPANと題して茅島江子先生（東京慈恵会医科大学看護学科教授）よりワークショップにおいて良い出産環境について論説があった。</p> <p>妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援<br/>                     シンポジウム「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保」を取り上げ<br/>                     産科医師の立場から<br/>                     開業助産師の立場から<br/>                     センター病院産科医師の立場から<br/>                     センター病院助産師の立場から<br/>                     シンポジスト三宅 馨、斎藤悦子、朝倉啓文、赤山美智代先生を中心に総合討論を行った。<br/>                     シンポジウムの要旨は、本学会機関紙「母性衛生」44巻4号（2003年）に掲載した。</p> <p>21.22 シンポジウム「不妊・不育患者の支援」を取り上げ<br/>                     不妊に悩む夫婦の展望<br/>                     不妊夫婦支援の看護職のあり方<br/>                     不妊夫婦への支援の実際<br/>                     不妊夫婦への支援—不妊治療の目指すべきもの<br/>                     不育症に対する精神的支援<br/>                     シンポジスト赤城恵子、柴田文子、安部裕司、黒田優桂子および杉浦真弓先生を中心に総合討論を行った。</p> |               |